

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～一流の素材より・・・・・・・・・・二流のプロに・・・・～

成功者の特徴として、「**行動しながら考える**」というものがあるそうです。行動するまえにあれこれ考えていると、ネガティブな考えが浮かびやすいのだとか…。やると決めたら行動し、やりながら成長していくのがいいみたいですね。

約十年ほど前、英語学習雑誌の編集者にこんな話を聞いた。

「うちの読者はみなさん、すごくまじめなんです。アメリカやイギリスを旅行したい、留学したいと思って・・・一生懸命、英語を勉強するんですが、どれだけやっても『まだ英語力が足りない』と思ってしまい、いつまでたっても現地に行けない。そういう人がすごく多いんです。」



もはや何のために英語を勉強しているのかわからず、本末転倒も甚だしいが、これを笑う気にはなれない。私も、こちらのタイプだからだ。

このタイプは、理想やプライドが高い。何かやるからには極めなければいけないと思っている。二流を認めず一流をめざす癖がある。そして、理想の高さゆえに、なかなか第一歩が踏み出せない。

こういう人は頭の中でいろいろシミュレーションをするのが好きだ。シミュレーションしすぎて、悪い想像力も働くので「強盗にあったときリスニングが悪いと命にかかわるかも」なんて思って、また英語の勉強に励むということになる。

アメリカ行きが恋愛や仕事に変わっても同じだ。

「もっと自分を磨いてから相手にアプローチしよう」とか

「もっとちゃんと準備してから店を出そう」

などと考える。このタイプには研究熱心な人が多いから、知識は増える。

批評眼も肥える。そして、プライドはますます高まる。

同一流でも、実行しないかぎり「一流の素材」ととどまってしまうのだが、それがまた「未完の利器」みたいな錯覚がして気持ちよかったりする。

**一流の素材より、二流のプロのほうがずっとマシである。**

最初から一流でなく二流をめざすべきとはそういう意味で、自分に言い聞かせているのである。



「間違う力」高野秀行著／角川新書

宝の地図は、それだけでは意味をなしません。どんなに素晴らしい地図を手に入れたとしても、行動しなければ、何も変わりません。人との出会いも、出て会いに行くから・・・「**出会う**」のです。

「まずやってみる!」ということが大切で、行動しながら学んで行くものです。失敗したとしても、それは経験になります。

たとえその時、恥ずかしい思いをしたとしても、もっと頑張ろう! 自分を磨こう! って、さらに奮起するのではないのでしょうか。

「強くなろう! 優しくなろう! 面白くなろう! 賢くなろう! 成績をあげよう!」って。挑戦もしないで、行動もしないでいたら、傷付くことはないかもしれませんが、成長もありません。

船は、港に停泊させるために造られたものではなく、航海をするために造られたのです。



## 人も、行動をするために存在しているのです。

中間考査が終わりました。小さな一步の積み重ねでもいい、ほんの少し、昨日の自分より誇れる自分になれるように、行動していきたいですね。